

『関東地方方言事象分布地図』

(第二巻表現法篇・第三巻語彙篇)

第三回金田一賞の荣誉に輝く大橋勝男氏の
大著『関東地方方言事象分布地図』第一

巻／音声篇に次ぐ、第二巻／表現法篇、第三
巻／語彙篇が、麗華を咲かせました。完結し
た全三巻の地図集(著作)は、日本の言語学
界に、不朽の貢献を成し遂げました。

氏の方言調査は、昭和四十一年から四十四
年まで、関東地方域六県にわたって実施さ
れ、ついに二七六地点、二三八項目によつて
完遂されました。調査終了後、氏は熱誠を傾
けて研究に邁進され、七年間の短期間で、全
三巻を刊行されました。完成に至るまでの、
膨大な作業を思うにつけ、よく、ひとり、緻
密な研究に専心されたものと、感嘆を禁じ
えません。また、氏のご夫人のお力添えの、
ひとかたならざることを、ゆかしく思うもの
でもあります。

氏は、修士論文で、関東地方北東部方言に
おける音声生活について、研究なさっていま
す。方言音声に対する広く深い造詣を基礎と

して、第一巻／音声篇の高著を、ものされた
のでした。

第二巻は、「文表現」を視点とするもので
あります。「あいさつ表現」そのものをとり
あげることからはじめて、文形式の諸要素に
および、かつ、それらの表現法の内部構造に
およんでいます。藤原与一先生の、生活語文
法観がとり入れられており、氏の独自の包括
的な人間味が、実践項目体系に、活生してい
ます。

第三巻は、「語彙」を視点とするものであ
ります。生活語彙体系内での、語のありよう
を重視して、名詞の分属に関しては、分野語
彙観に立脚しておられます。また、他の品詞
に関しては、すべての語詞を覆うよう配慮さ
れています。本語彙篇の目的が、語史再構だ
けに限定されるものではないことが、推察さ
れます。

また、各々の巻の末尾に、音声面、表現法
面、語彙面から見た関東地方方言分派図が
掲出されています。これは、こんにちの方言

事象地理学の隆盛下にあつて、方言分派地理
学の推進を志向させたものであり、格別に注
目されましよう。

さて、言語地理学の必須条件を、仮りに、
次のようにまとめてみます。

①「資料の均質性」(方言の資料批判を扱
きにして、言語地理学の正道はありえない)

②「符号学の論理性」(方言事象と符号と
の、論理的な調和が、言語地理学の根本であ
らう。)

③「方言の人間性」(生身の人間の表現を
把えてこそ、永遠の言語地理学であらう。)
大橋氏の著作は、右の三条件を、十全に満た
していると考えられます。

私どもは、常民の言語を討究した国民的遺
産として、『日本語地図』、『瀬戸内海言
語図巻』および、『関東地方方言事象分布
地図』を得ました。本書の普遍的な価値は、
時代を超えて、ゆるぎないものでありまし
ょう。(第二巻、昭和五十一年二月二五日、桜楓
社刊、B四判、図一五九葉、一、二〇〇〇円、
第三巻、昭和五十一年一月二〇日、桜楓社
刊、B四判、図一六一葉、一、二〇〇〇円、第
一卷、昭和四九年五月二五日、私刊、B四
判、図一五七葉、三八〇〇円)(江端義夫)